

## ルカ 13:1-9

13:1 ちょうどそのとき、何人かの人に来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた。

13:2 イエスはお答えになった。「そのガリラヤ人たちがそのような災難に遭ったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。

13:3 決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。

13:4 また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だったと思うのか。

13:5 決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」

13:6 そして、イエスは次のたとえを話された。「ある人がぶどう園にいちじくの木を植えておき、実を探しに来たが見つからなかった。

13:7 そこで、園丁に言った。『もう三年もの間、このいちじくの木に実を探しに来ているのに、見つけたためしがない。だから切り倒せ。なぜ、土地をふさがせておくのか。』

13:8 園丁は答えた。『御主人様、今年もこのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥やしをやってみます。

13:9 そうすれば、来年は実がなるかもしれません。もしそれでもだめなら、切り倒してください。』」

-----  
<前口上>

ご存知の方もおられるでしょうが、わたしはタバコ吸いです。たいていの牧師はわたしの喫煙について忠告をしてくれます。わたしが、それではわたしの禁煙のために祈ってくださいというと、たいていの牧師は何をいっているのか、って顔をします。

創世記、神がモーセに注意をします。

「履物を脱ぎなさい、あなたの立っているところは聖なる土地だから」

コリント書では、パウロがコリント教会へ忠告を言い渡します。

「みんなが霊的なマナを食べ、岩の水を飲んでいて、そのイスラエルの民の大部分は神のみ心にならず荒野で滅んだ。立っている思っている者は倒れないように注意しなさい」

そしてきょうの福音で

「シロアムの塔が倒れて死んだあの 18 人は、罪深い者云々」とイエスはいいます。

前半はエルサレムでおきたふたつの不幸な事件「ガリラヤ人大量殺害事件とシロアム崩落 18 人死亡事故」、後半がそれをうけたイエスのたとえ話「実を結ばないいちじくの木、切つてしまえ、いや、来年まで待ってください」という構成になっています。

前半の事件について、因果応報、罪を犯したからバチが当たっ

て死んだのさ、という人びとに対して、イエスはそうじゃない、きみたちもいっしょ、悔い改めなければ滅びるぞ、「因果応報」を否定し、しりぞけて、「悔い改め」を奨めます。

そして後半で、主人と園丁のやりとり（主人は神で園丁がイエスにたとえられるという解釈もあります。）

主人は3年まっけているのに実を結ばないから切れ、園丁はあと一年まってください、肥やしをやるので、と頼みます。これを譬えで置き換えると、

民はいつまでたっても実を結ばない、悔い改めない、すると神はもう滅ぼすという、しかしイエスは待ってくださいと必死にとりなす。ろくでもない、実も結ばない、わたしたちのためにイエスは必死になるのです。

牧師がわたしの禁煙のために祈り、業界用語で「とりなし」をした、一年たっても禁煙していないので、わたしの身代わりに死んだ、としたら。

わたし？タバコ止めますよ。

まとめ

前半 1-5 「さまざまな悲惨な出来事はわたしたちにとって悔い改めのチャンス」

後半 6-9 「今がその最後のチャンス」

この聖書箇所からの説教は、いま悔い改めないと、あなた、滅

びますよ、と結びます。それしかいいようはありません。

でもね、説教はしょせん説教ですからそんなもんですが、信仰はそんなうすっぺらいものではありません。

前半では、2000年前、当時おきた事件についてワイドショー的、他人事として、とやかくいっている人たちをイエスは命懸けで諫めているのです。

後半の「イチジクの譬え」では、前半で諫めた相手、実をつけないイチジク=悔い改めない罪人、のとりなしを神に対して命懸けでやっているのです。

そして実際にイエスは死にます。

だから、この「イチジクの譬え」はこのようにも読むことができます。

切り倒されたのは、実をつけないイチジク=悔い改めない罪人、ではなく園丁=イエスでした。

イエスは十字架に死にました。罪人の身代わりになって死にました。

信仰とは単純に言えば「イエスが生まれ、十字架で死んだ、そして人類は救われた」と信じることです。この譬え話のおもての面だけでなくその意味するところを文面の裏にある意味を、この信仰を通して、ぜひ、汲み取ってください。